

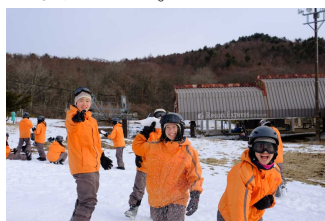


修学旅行 信州・飯綱高原 スキー・スノーボード研修

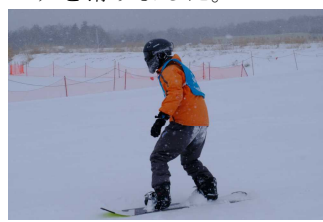
2月4日(火)、朝7時にバス2台で学校を出発。途中、道の駅やサービスエリアに立ち寄りながら、夕方5時に長野県飯綱高原にあるホテルアルカディアに到着。きれいな教会のような外観で、雪をかぶった志賀高原方面が一望できるすてきなホテルでした。ウェアやスキー、スノーボードの靴あわせを行った後、夕食をとり次の日に備えました。



2月5日(水)、今年は記録的な暖冬で雪不足、ホテル前のスキー場は閉鎖されていました。バスで5分ほどの「いいづなリゾート・スキー場」でレッスンを行いました。小雪が舞う中、開校式をした後、スキー2班、スノーボード6班に分かれてレッスンが始まりました。午後からは雪もさらに降ってきましたが、みんなよく頑張り1日でだいぶ滑れるようになりました。

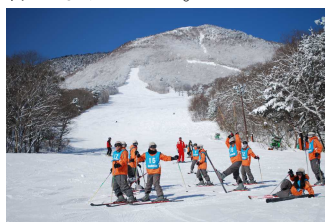


2月6日(木)、朝目が覚めると昨日から降り続く雪で周りの景色は白銀の世界に一変していました。一日中雪が降り続き、寒くて視界の悪い厳しいコンディションでしたが、みんな集中してレッスンを受け、インストラクターの方々が驚くほど上達しました。レッスン修了後、この日はフリー滑走の時間も設定し、思い思いにゲレンデを滑りました。



2月7日(金)、最終日は昨日と打って変わって雲一つない快晴。いつもより30分早い8時30分にレッスンを開始しました。新雪を整備したゲレンデは滑りやすく、景色も最高でした。あっという間に2時間のレッスンが終了。なごりおしかったです、12時に飯綱高原を出発しました。

スキーやスノーボードの実習を通して心身を鍛えるだけでなく、友達との協調性や連帯感を高めることができる修学旅行となりました。



第7回 南紀熊野ジオパークフェスタ

2月15日(土)、CGS部のジオパーク班と調理班が串本町体育館で開催されたジオパークフェスタにそれぞれ出展しました。

ジオパーク班では、オカヤドカリ類の研究に関するポスター展示、調理班では地元でとれたジビエ肉を使ったキーマカレー弁当の販売を行いました。多くのお客様にCGS部のブースを訪問していただき、キーマカレーは用意した50食が昼頃に売れきれました。また、テレビ和歌山の取材も受けました。



マナビスト支援セミナー成果発表

2月15日(土)、令和元年度マナビスト支援セミナーの成果発表会を行いました。和歌山県教育委員会主催・和歌山大学地域活性化総合センターときのくに活性化センター共催で、「ひと(人)が育つ地域社会〜人口減少社会〜への挑戦〜」というテーマを掲げ、10月から5回開いた企画ゼミの成果を発表しました。

3部構成で行われ、第1部は4つの発表がありました。トップバッターの3班が「若者から高齢者までこの地域に住む全ての人が楽しめるイベント〜安心して生活できる地域づくり〜」を発表。次に2班Aグループ「田舎の強みを生かして居心地の良い場所を作り出す」、2班Bグループ「地域の魅力を『見える化』しよう」、1班「人口減少対策〜人づくりに焦点を当てて〜」と続けました。

第2部は今年度「過疎地域自立活性化優良事例表彰」で総務大臣賞を受賞した、かつらぎ町にある「天野の里づくりの会」の谷口千明会長さんが「過疎・『合意形成』の地域づくり」というタイトルで講演されました。

第3部は「人が育ち合う社会を作るために〜人・場づくり・システム〜」というテーマでパネルディスカッションを行いました。ファシリテーターは和歌山大学の村田和子教授、パネリストは和歌山大学の金川めぐみ教授、天野の里づくりの会の谷口会長さんのほか企画ゼミの生徒3名、計6名で行いました。

参加した生徒にとって、他校の高校生や一般の方々と地域の課題について意見を交わし合うこの取り組みは、これから生きていく社会で課題を見つけ問題を解決していく力を身につけていく上で貴重な体験となりました。来年度のマナビスト支援セミナーは今年の経験を生かして、さらにレベルアップしてほしいと思います。

